

②千石斜坑の西俣川付近の断層部

- ・調査Bのボーリング調査の結果（図25）、断層部及びその周辺においては、短い間隔で地質が悪い箇所が約400mに亘り、繰り返し出現したことを確認しました。当該箇所のコアの状況を写真8で示します。湧水量が増加した区間のコア写真には赤い囲みで表記します。（5m延長で赤い囲みを表記）

特に状態の悪い深度690mから700mにかけてはコア採取率約50%、RQDは平均6%であり、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説（平成27年6月 一般社団法人全国地質調査業協会連合会）によると「非常に悪い」という評価となります。

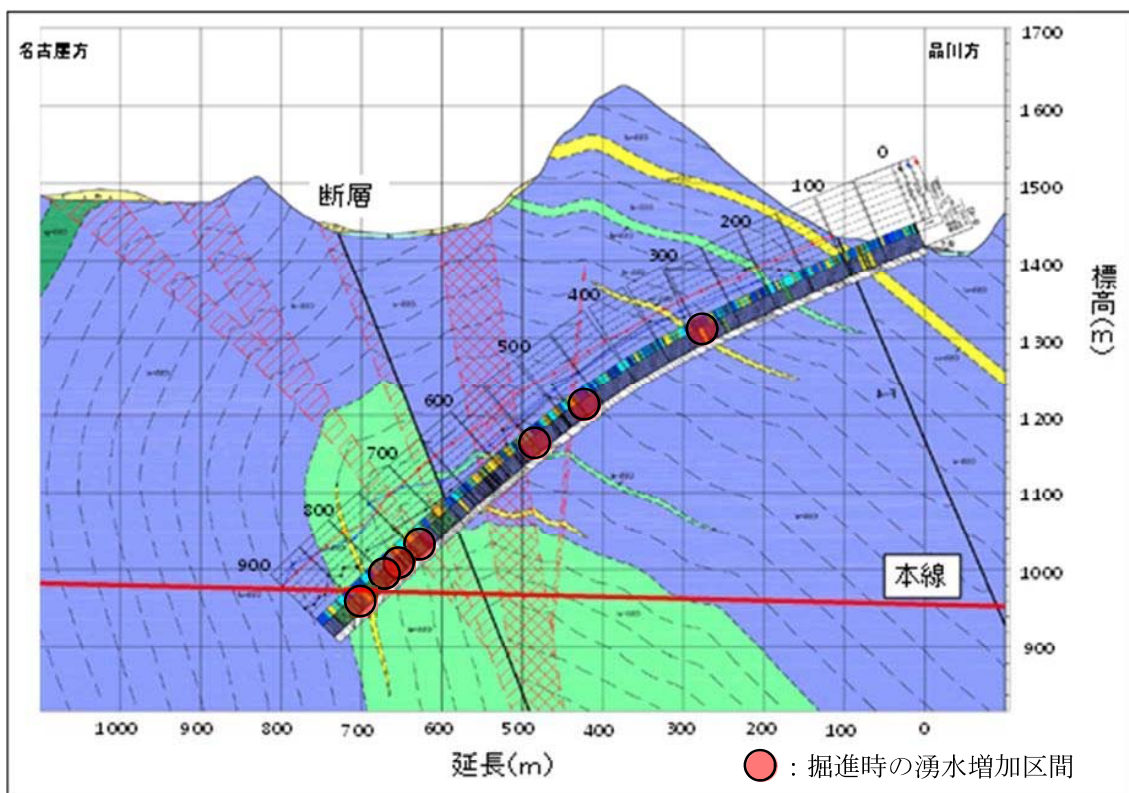


図25 ボーリング調査結果

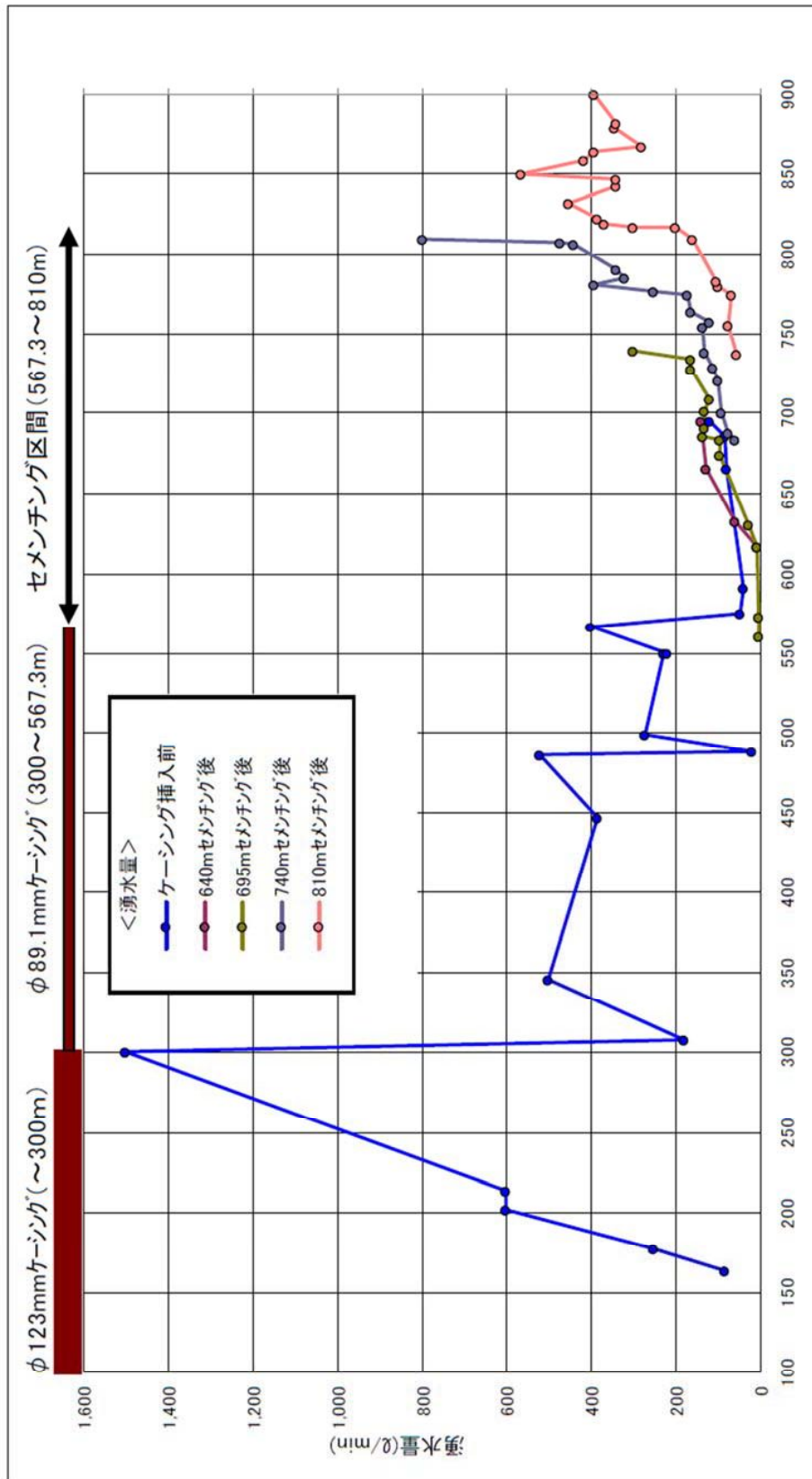


図 2 6 ボーリング時の口元湧水量